



このマークは社会福祉協議会の「社」を図案化し、「手をとりあって、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

いわき市 社会福祉協議会だより

第140号
令和3年9月17日発行
発行・編集

社会福祉法人
いわき市社会福祉協議会
いわき市平字菱川町1番地の3
(いわき市社会福祉センター内)
TEL0246-23-3320 FAX0246-35-5031
ホームページ <https://www.iwaki-shakyo.com>
メールアドレス master@iwaki-shakyo.com

令和3年度 福島県共同募金会 赤い羽根共同募金運動スローガン

みんなでね 募金をすると ほら笑顔

優秀賞作品

* いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 根本理紗さん



市内各地での募金活動

行動とあなたの気持ちで 变わる未来

最優秀賞作品

福島県立小名浜海星高等学校 三年 内山春菜さん

目 次

今年も共同募金にご協力をお願いいたします	2
役立ちました！共同募金	3
報告します 本会の令和2年度事業報告・決算	4 ~ 5
避難行動要支援者マップ作成事業	5
第4次地域福祉活動計画を策定しました	6
ボランティア活動センター通信・社協通信	7
地区協議会だより	8

愛ちゃんと希望くん



© 中央共同募金会

今年も共同募金にご協力をお願いいたします



社会福祉法人
福島県共同募金会
いわき市共同募金委員会
会長 金成 克哉

毎年、市民の皆さまには、共同募金にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も10月1日から、地域の行政嘱託員、民生委員・児童委員の皆さまをはじめ、多くの団体のご協力をいただき、赤い羽根共同募金運動の募金活動が展開されます。

お寄せいただきました募金は、福島県共同募金会の配分委員会の承認を得て、本市の地域福祉を推進する社会福祉法人、NPO法人、ボランティア団体、障がい者団体さらには大規模災害時の支援や見舞金として配分されています。

また、歳末たすけあい募金は、歳末時期に支援を必要とする世帯に対し、見舞金や介護用品等を支給するための募金であります。

本市共同募金委員会では、民間の社会福祉事業や地域福祉活動への助成を通じ、制度の狭間にある様々な福祉課題の解決に向けて支援するとともに、誰もが住み慣れた地域で暮らし続ける社会を目指し、関係機関との連携・協働により、福祉のまちづくりに努めて参りますので、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい経済環境の中ではございますが、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



共同募金(歳末たすけあい募金を含む)は、社会福祉法に定められている民間の募金活動です。募金期間は厚生労働大臣の告示により10月1日から翌年3月31日まで全国一斉に行われます。

令和3年度 いわき市の目標額

赤い羽根共同募金 4,867万1,000円
歳末たすけあい募金 2,517万9,000円

- 赤い羽根共同募金は、一戸あたり500円を目安としております。
- 歳末たすけあい募金は、一戸あたり300円を目安としております。

共同募金は民間社会福祉施設、団体の施設整備や福祉事業に配分することを目的として、使いみちの計画を立ててから行うため、目標額が設定されています。



© 中央共同募金会

“ありがとう”メッセージ

特定非営利活動法人 母子通園センター
いわき母子訓練センター（送迎用軽自動車整備事業）

私たちは、障がいを持ったお子さんや発達の気になるお子さんが通う療育施設として、日常生活や地域社会において、いきいきと豊かに過ごしていくけるよう支援を行っています。

これまで、普通ワゴン車と軽自動車を使い分けながら送迎していましたが、車椅子利用の子どもたちの乗降に不便が生じていました。

共同募金の配分を受け、車椅子への対応も可能な送迎用軽自動車を購入することが出来たことで、利便性も高まり、安全な送迎が出来るようになりました。

ありがとうございました。



役立ちました！共同募金

令和2年度
実績額

赤い羽根共同募金 4,867万1,733円
歳末たすけあい募金 2,517万9,824円

お寄せいただいた募金は、福島県共同募金会に集められ、配分委員会の審議を経て、県内の福祉施設や福祉団体などへ配分される仕組みになっています。



© 中央共同募金会

●赤い羽根共同募金の使われ方●

いわき市には、総額 4,585万円が配分されました。

① 安心して利用しやすい福祉施設づくりとして8施設1団体へ1,534万円が配分されました。（単位：万円）

受配施設名	配分額	配分金の使途	受配施設名	配分額	配分金の使途
いわき光成園	300	利用者用トイレ改修事業	わくわくネットいわきわくわくキッズ	102	送迎用車両整備事業
ゴールデンハープアルケン	300	送迎用車両整備事業	ワークハウスいわき	100	運搬作業用軽自動車整備事業
福祉協会	285	送迎用車両整備事業	杜のどーなつ	86	販売用軽自動車整備事業
わいわい作業所ななえ	203	送迎用車両整備事業	福島県児童館連絡協議会	5	広報紙発行事業
いわき母子訓練センター	153	送迎用軽自動車整備事業			

② 市町村社会福祉協議会活動を推進するために
3,043万円が配分されました。（単位：万円）

③ 非常災害や緊急事態に対する見舞金として罹災者に
8万円が贈られました。（単位：万円）

受配団体名	配分額	配 分 金 の 使 途		配分額	配 分 金 の 使 途
いわき市社会福祉協議会	3,043	地域福祉活動・在宅サービス事業など	災害見舞金	8	火災による罹災者への見舞金（火災8件）

●歳末たすけあい募金の使われ方●

いわき市には、総額 1,412万円が配分され、市内の低所得者世帯などの皆さまへ届けられました。（単位：万円）

配分などの区分	配分額	配 分 金 の 使 途
見 舞 金	913	生活困窮世帯(576世帯) * 在宅のひとり暮らし高齢者、障がい者、ひとり親世帯など
地域福祉事業	499	防水シート(138世帯)や高齢者世帯への健康情報カレンダー配布、児童養護施設入所者お年玉支給など

“ありがとう”メッセージ

特定非営利活動法人 わいわい作業所 ななえ
(送迎用車両整備事業)



私たちは、就労継続支援B型事業所として、さまざまな障がいを持つ仲間とともに作業し、収入を得ながら、自立した生活を送ることができるよう支援を行っています。

これまで、公共交通機関を利用して通所されていた方から、送迎の希望が増え、職員が複数回往復して送迎を行っていました。

共同募金の配分を受け、送迎車両を購入することが出来たことで、利用者のニーズに合わせた送迎をすることができるようになりました。大切に使用させていただきます。

ありがとうございました。

報告します

本会の令和2年度事業報告・決算

本会では、第3次地域福祉活動計画に基づき、「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができるまち『いわき』」の実現に向けて、関係機関・団体などの協働のもと地域に密着した福祉サービスの拡充に努めるとともに、適正な予算執行に努めました。

地域福祉事業

●住民支え合い活動づくり事業

第2層協議体会議の開催：13回

住民支え合い生活支援サービスの実施：103件

●住民支え合い事業

市内44地区指定

●避難行動要支援者マップ作成事業

10地区

●緊急連絡カード（兼）医療情報キット配備事業

配備者数：7,003人

●つどいの場創出支援事業の実施

市内286箇所 実施回数：3,704回

延参加者数：39,725人

●子育てサロン事業

実施箇所数：18箇所

実施回数：118回

延参加組数：646組

●地域子育て支援拠点事業

延利用者数：大人44件

子ども2,218人

●いわき市屋内遊び場

延利用者数：大人8,078人

子ども6,569人

●たすけあい子育てフードバンク事業

新規登録件数：13件

ボランティア活動センター事業

●車椅子同乗移送用自動車の貸し出し
利用件数：253件

ボランティア活動センター事業

●ボランティア相談
相談件数：40件

●児童・生徒向け福祉体験プログラム
参加児童・生徒数：1,286人

23回

福祉総合相談センター事業

●心配ごと相談
相談件数：254件

●無料法律相談
相談件数：72件

●ふれあい相談
相談件数：4,181件

福祉総合相談センター事業

●生活困窮者自立相談支援事業
相談件数：1,091件

木一ヘルプセンター事業

●在宅福祉サービス事業
居宅介護支援事業：2,139人

訪問介護事業：511人

（5,090回）

（2,058回）

木一ヘルプセンター事業

●日常生活自立支援事業
契約件数：18件（利用人数82人）

木一ヘルプセンター事業

●法人後見事業
受任件数：8件

木一ヘルプセンター事業

●障がい福祉サービス事業
延利用者数：228人（1,394回）

木一ヘルプセンター事業

●身体障がい者訪問入浴サービス事業
延利用者数：127人（732回）

木一ヘルプセンター事業

●産前・産後ヘルパー派遣事業
利用者数：14人（111回）

木一ヘルプセンター事業

●緊急小口資金
（貸付総額）3億2,308万円

木一ヘルプセンター事業

●総合支援資金
（貸付総額）7億2,150万6,000円

木一ヘルプセンター事業

●生活支援相談員の配置
1人



募金運動の推進

●赤い羽根共同募金運動
募金実績額：4,867万1,733円

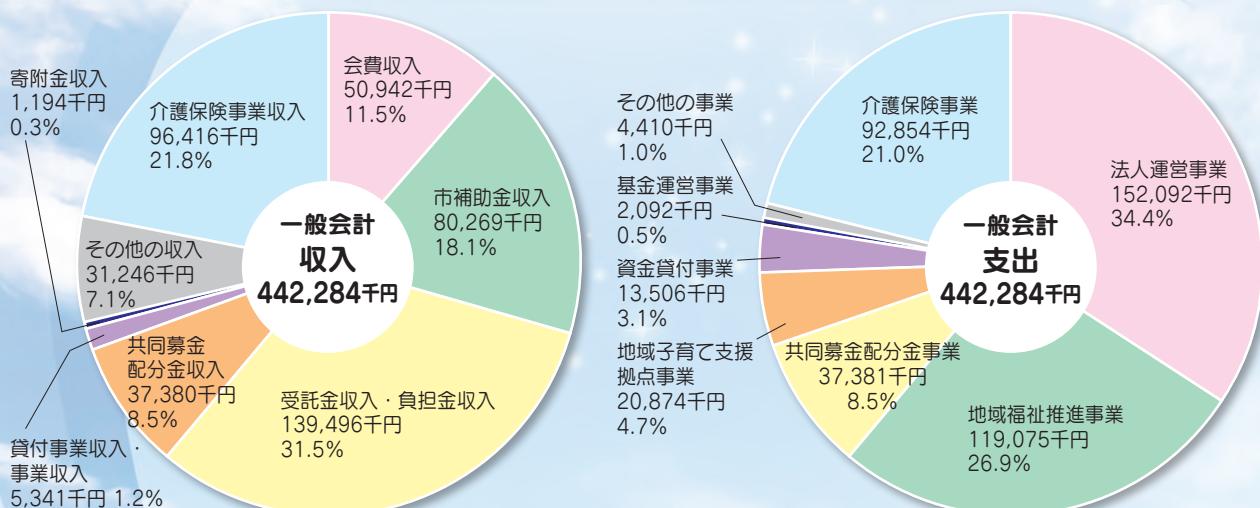
●歳末たすけあい運動
募金実績額：2,517万9,824円

●福祉の仕事相談会
相談件数：14件

●福祉人材確保事業
相談件数：14件

●ボランティア活動センター事業
利用件数：253件

令和2年度 収入・支出のあらまし



避難行動要支援者マップ作成事業

日頃から地域住民が自主的に支え合い支援していく仕組みづくりを進めるため、避難行動要支援者マップ作成事業（市受託事業）を実施しています。

マップ作成にあたり、地域の関係機関・団体等の協力を得ながら、災害時に援護を要する方や日常的に支援を必要とする方（緊急連絡カード（兼）医療情報キットを配備している世帯等）を把握し、避難所の場所、周辺の活用可能な医療・福祉施設等、避難方法、地域の支援者の方等を標記した地図を作成するもので、令和3年9月1日時点で、市内10地区において行っています。

この事業は、東日本大震災後の平成25年度から実施しており、令和元年東日本台風による被災地域を含め、令和2年度までに市内105地区で作成しています。

■令和3年度マップ作成地区一覧

平	平25区	四倉	袖玉山地区
小名浜		小川	
勿来	地区選定中	三和	
常磐		田人	地区選定中
内郷	宮12区	久之浜・大久	

平時からの見守りが
災害時の支え合いへ



<小川地区>



第4次地域福祉活動計画を策定しました

第4次地域福祉活動計画とは

これまで第3次地域福祉活動計画（平成26年から令和2年度）にそつて地域福祉事業を実施してきましたが、社会情勢の変化により、市民の皆様が抱える生活・福祉課題は大きく変容しました。

このような中、市との連携を強化し、さらなる地域福祉活動の推進を図るため、地域住民や関係機関・団体等と協働して取り組む「第4次地域福祉活動計画」を「いわき市地域福祉計画」と一体的に策定しました。

両計画を基に、令和3年から令和7年度までの5年間、市民の皆様をはじめ、関係機関・団体等と協働・連携しながら包括的な支援体制を整え、本市の地域福祉を推進していくよう努めてまいります。

地域福祉活動計画（社協）と 地域福祉計画（市）の基本方針

基本理念

住み慣れた地域で共に生き、支え合い、
誰もが安心して、健康で自分らしく暮らせるまち いわき

3つの
基本目標

- 基本目標1 共に生きる社会をつくるために
- 基本目標2 支え合い、誰もが安心できる地域をつくるために
- 基本目標3 健康で自分らしい暮らしをつくるために

いわき市社会福祉協議会

地域福祉活動計画

民間相互の協働による計画

一體的取組み

いわき市

地域福祉計画

公民のパートナーシップによる計画

*住民参加の取り組み *民間活動の基盤整備

住民参加

ともに生きる豊かな地域社会の実現

ボランティア活動センター通信

市内6校から57名が参加!

第30回 サマーショートボランティアスクールを開催!!

高校生を対象に、夏休みの期間を利用して、市内の福祉施設等でボランティア体験を行い、自分たちが住む地域社会の福祉の現状や課題を理解し、今後のボランティア活動への積極的な参加を促すことを目的に開催しています。

今年度は、市内6校から57名が参加し、7月29日に、いわき産業創造館企画展示ホールにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した中で開催しました。

災害ボランティア活動への関心を高め、ボランティア活動を始めるきっかけづくりとするため、「台風19号」忘れもしない私の体験「若者が地域を救う」と題し、東日本国際大学4年の熊澤海人さん、同大学ボランティアセンター主幹の佐藤佳祐さんに、当時の状況を振り返りながら話をいただきました。また、認知症の方との接し方や地域での見守りの大切さを学ぶため、認知症キャラバンメイトの渡辺成子さんを講師に、「認知症ティア活動があることを知り、参加意欲を高めることができたようでした。サポートー養成講座」を開催しました。

佐藤さん、熊澤さんの講話の様子



渡辺さんの講話の様子

★参加高等学校

いわき秀英高等学校	いわき総合高等学校	磐城第一高等学校
磐城農業高等学校	東日本国際大学付属昌平高等学校	平商業高等学校

(敬称は省略させていただきました)

社会協議会

生活・就労支援センター

生活・就労支援センターでは、生活や仕事のことなどでお困りの方からの相談を受け、困りごとの解決に向けて、一人ひとりの生活状況に合わせた支援先の紹介等、継続的に支援を行っています。



お問い合わせ先

生活・就労支援センター ☎38-6500まで
seikatsu-shien@iwaki-shakyo.com

お困りごとはありますか?

本会では、住民同士が共に支え合い・助け合うため、「住民支え合い生活支援サービス」を実施しています。

普段の生活の中で、ゴミ出しや電球交換などでお困りの方やどんなサービスがあるのかを知りたい方は、最寄りの地区協議会まで、お気軽にお問い合わせください。

また、支え合いサポーター（ボランティア）として活動にご協力いただける方も募集しておりますので、ぜひご連絡ください。



お問い合わせ先

地域福祉課 ☎23-3320(代)まで

地区協議会だより

市内13地区(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、四倉、遠野、小川、好間、三和、田人、川前、久之浜・大久)に地区協議会を設置し、「住み慣れた地域で共に生き、支え合い、誰もが安心して、健康で自分らしく暮らせるまち いわき」を基本理念に、地域住民の福祉ニーズに合ったさまざまな事業を実施しています。

◆小名浜地区協議会 (子育てサロン)



就園前の子どもとお母さんを対象に、小名浜市民会館において毎月3回開催しています。

民生委員・児童委員、主任児童委員が子どもたちを見守りながら、お母さんたちが子育てに関する情報交換や悩みを相談したり、音楽に合わせた親子体操など、楽しいひと時を過ごしています。

◆詳しくは、小名浜地区協議会
☎54-2111(代)まで

◆三和地区協議会 (介護講座)



「減塩と血圧のお話」をテーマに7月21日、三和ふれあい館において開催しました。

当日は、17名が参加し、普段の食塩摂取量を把握するとともに、減塩による健康効果や病気予防について学び、参加者から「減塩を心掛け、健康寿命を延ばしたい」などの声が聞かれました。

◆詳しくは、三和地区協議会
☎86-2111(代)まで

◆田人地区協議会 (夕食配食サービス事業)



民生委員・児童委員の協力により、75歳以上の人々暮らし高齢者と、80歳以上の高齢者の世帯を対象に、8月は飲料水、11月はお弁当を配布しています。

猛暑が続いた8月は、熱中症予防のため、スポーツドリンクを169名の方に届けながら、交流を深めました。

◆詳しくは、田人地区協議会
☎69-2111(代)まで

たすけあい子育てフードバンク事業等への寄贈ありがとうございました

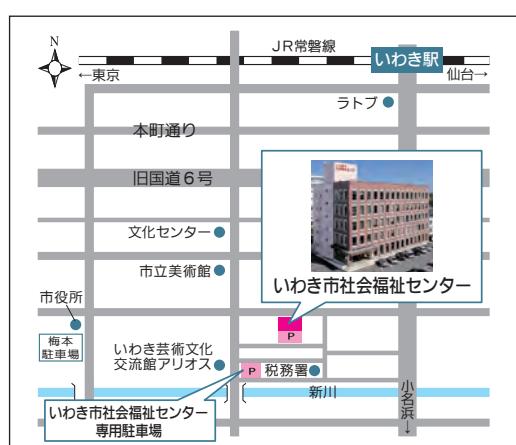


株式会社 セブン-イレブン・ジャパン様より 食品・日用品の寄贈

令和3年7月29日、県内店舗の改装時に発生した在庫商品などを地域支援に役立ててもらおうと、福島県社会福祉協議会を通じて、浜通りの4市町(いわき市・大熊町・富岡町・双葉町)の社会福祉協議会へ、食品・日用品が寄贈されました。

株式会社 営洋様・ ヤマダイ株式会社様より カップ麺の寄贈

令和3年8月2日、企業の社会貢献として、福祉関連事業に役立ててもらおうと、本会と市内5つの福祉団体へ、合わせて6千食のカップ麺が寄贈されました。



編集後記

共同募金は、子ども、高齢者、障がい者などの福祉活動や災害時の支援に活用されるほか、新型コロナウイルス感染拡大の影響で生活にお困りの方を支援するため、令和2年度から「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援全国キャンペーン」も展開しておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

広報委員一同

皆さまの声をお待ちしています!

いわき市社会福祉協議会では、市民の皆さまの声をお待ちしています。手紙、電子メールでお気軽に寄せください。
住所：いわき市平字菱川町1番地の3（いわき市社会福祉センター内）
ホームページ▶ <https://www.iwaki-shakyo.com>
メールアドレス▶ master@iwaki-shakyo.com



いわき市社協
ホームページ